



(仙台七夕シンボルマーク)

《伝統》  
仙台七夕飾りをつくろう



仙台七夕まつり協賛会

## 七夕飾りをつくる

### “仙台の七夕飾り”について

そのむかし王朝時代には、七夕祭に7枚のカジの葉に和歌を書いて、織女星をまつるならわしがあったという。これが、さまざまの推移変遷を経て、現代の夏の夜の風物詩「七夕祭」となった。

仙台の七夕も、その古い伝統を藩政時代からほこってきた。伝統的な飾りものとしては、

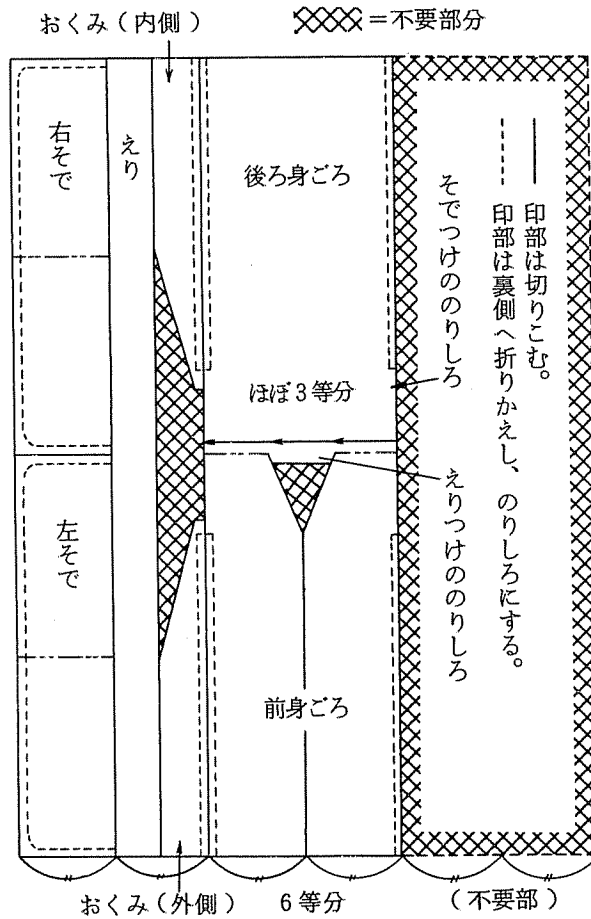
- (1) 色紙短冊＝文字を書いて、学業や書道の上達を願う。
- (2) 紙の着物＝身代りとして病気災害を除き、裁縫や手芸の上達を願う。
- (3) 折りづる＝家族の長寿を祈る。
- (4) きんちゃく＝商売繁盛を願い、富貴をのぞむ。
- (5) 投網＝豊漁や豊作を祈る。
- (6) くずかご＝清潔と節約のこころがけを養う。
- (7) 吹き流し＝織り糸をたらした形をあらわす。

の7つがある。

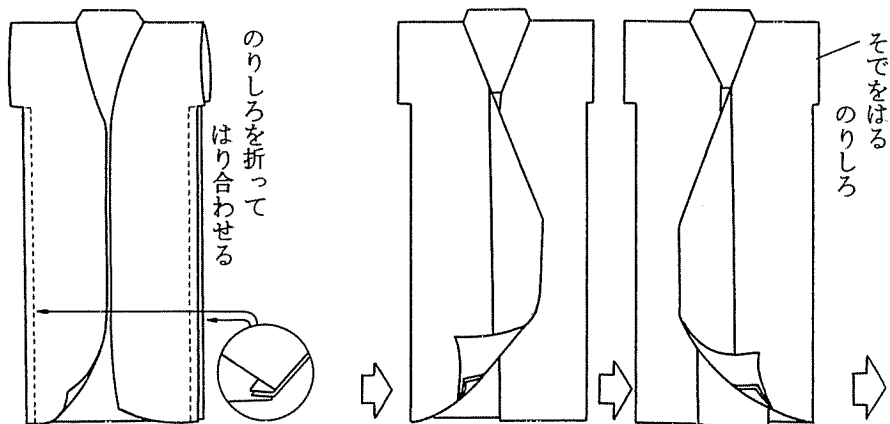
その主流をなす色紙短冊は、元来、当日の早朝カラトリの葉にたまった露を、洗い清めたすずりに移して墨をすり、七夕に関する古歌や自作の歌をしたため、学芸や手跡の向上を願ったものというが、今は「七夕」とか「天の川」「星まつり」などの簡単な文字を書く習慣に変わってきた。

今日ではたくましい商業主義の影響をうけ、豪華な吹き流しに主役の座をうばわれつつある。

# 〔A〕 紙衣（紙の着物）

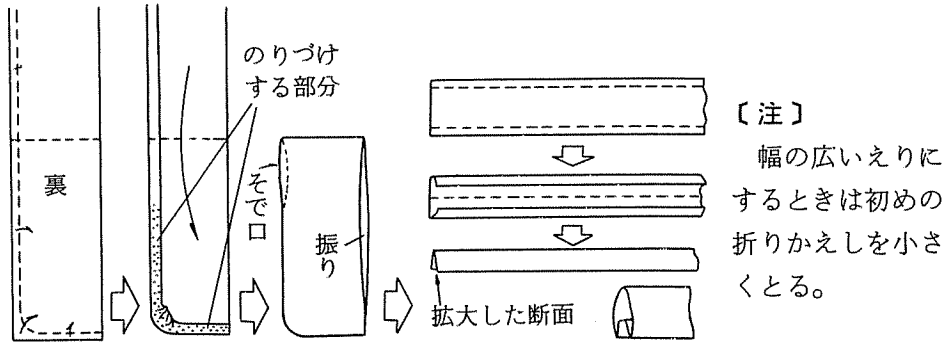


- ① 身ごろは2つに折って両わきをはる。
- ② おくみ（前合わせ部）は、のりしろを折って前身ごろの表にはる。



③ そでをはり合わせる。

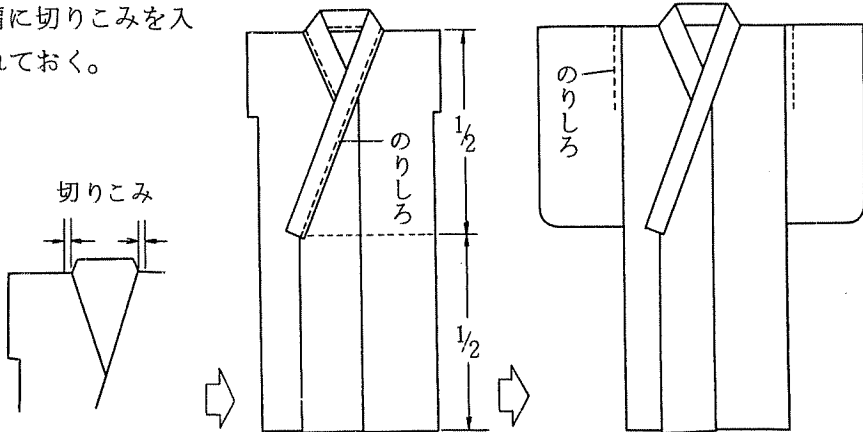
④ えりは、中心線に向けて両側を折りこんだ後、さらに2つ折りにする。



⑤ えりをはる前に、えり幅ののりしろ分に合わせて、両肩に切りこみを入れておく。

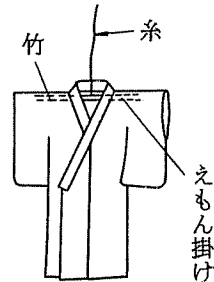
⑥ えりをはりつける。(身たけの1/2位が適当)

⑦ そでをはりつける。えもんかけをはりつけてできあがり。

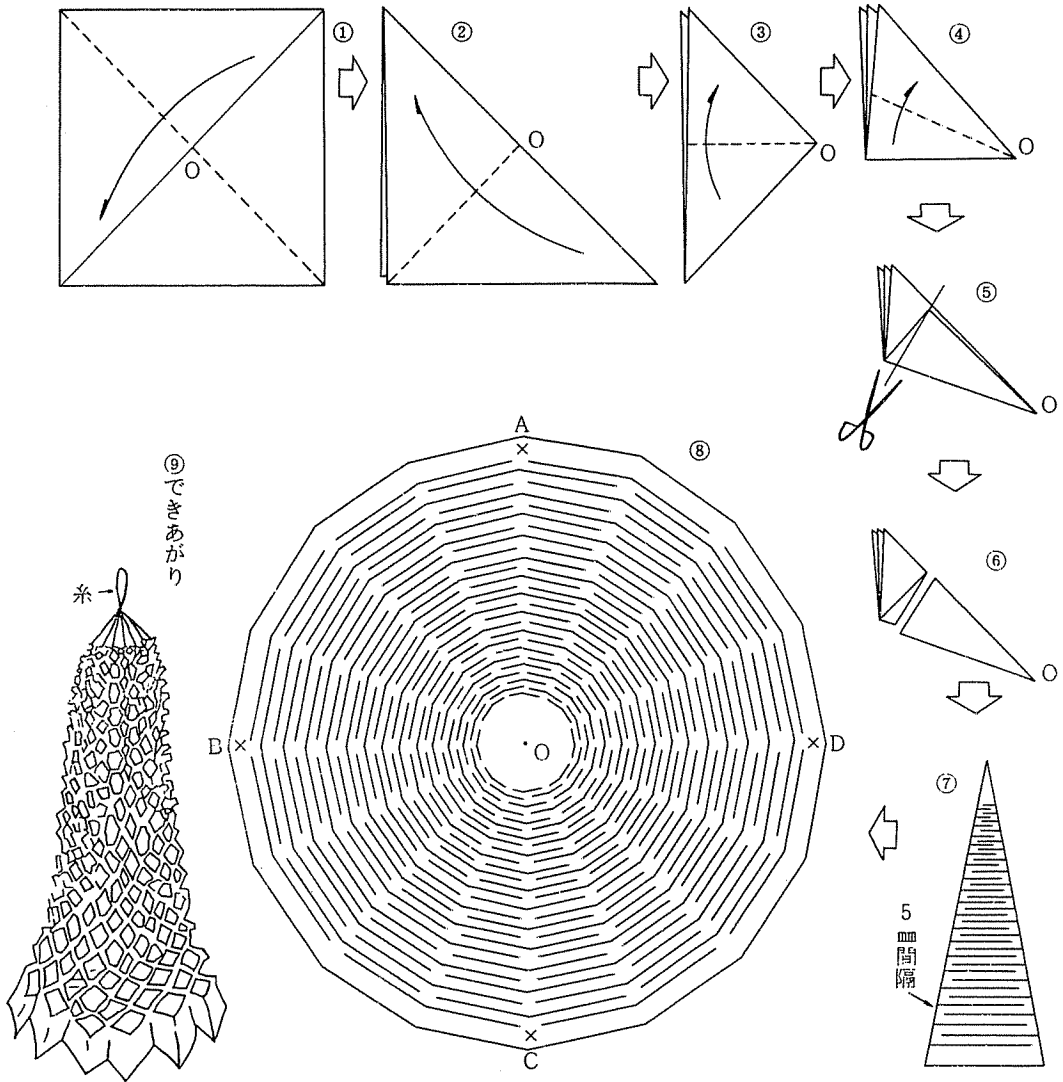


【参考】

- ▶ 紙衣は、実際の和裁に準じた裁ち方をする。(紙をタテに6等分した幅を反物の幅とみてる。)
- ▶ 美しく仕上げるコツ=そでの振りの部分をのりしろ幅だけ裏へ折りこんでくけとりをし、また、身ごろのすそや、おくみのえり下も、同じようにくけとりをするとよい。
- ▶ えりをつけると余りができる。実際の和裁では、これを掛けえりとして利用する。
- ▶ 材料は和紙が理想的だが、初心者にはアート紙系統のもののほうが細工しやすい。



## 〔B〕 投 網



### 【つくり方】

- ▶用紙は、しなやかで腰の強いハترون紙系統の紙が作りやすい。
- ▶図①～④の順序を追って紙を折る。(用紙の中心点Oが、常に三角形の頂点になるように4回折ればよい。)
- ▶図⑤では、Oを頂点とする二等辺三角形の底辺となる位置をカットする。
- ▶図⑦の切りこみは、底辺に平行に、右からと左からと交互におこなうこと。切りこみ幅は、用紙の大きさによって若干異なるが、だいたい5mm間隔くらいとし、頂点に近づくほど幅をせまくすると、仕上がった感じが美しい。(切りこみ線が不ぞろいだと見た感じが

がきたないので、めんどくでも物指しを使い、線を引いておくとよい。

- ▶切りこみが終わったら、図⑧のようにひろげてシワをのばす。(きれいな正十六角形になっている。)
- ▶中心点に糸をつけ(糸に結び目をつくり小紙片でおさえてのりづけする)静かに引きあげれば「投網」のできあがりである。

### 【参考】

- ▶大型の「投網」をつくるときは、広い包装紙などを利用するとよい。
- ▶模様のある紙の場合は、その面が内側になるようにして図①～④の順序でたたむこと。

## 〔C〕 くずかご

### 【つくり方】

- ▶ つくる手順は、途中まで左図の投網とまったく同じである。
- ▶ 図⑦で切りこみを入れる場合、その幅を投網の2～3倍（10～15mm）くらいのあらしにする。
- ▶ 切りこみが終わったら、ひろげる。
- ▶ 図⑧のA、B、C、Dの4か所をつまんで静かに持ちあげる。
- ▶ 色紙の裁ちくずを中に入れて形を整えながら、持ちあげた4か所をいっしょにとじあわせ、吊り糸をつける。

### 【参考】

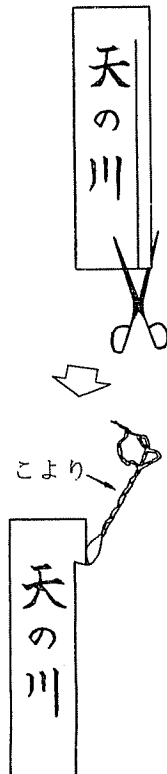
- ▶ 模様のある紙の場合は、その面が外側（投網の反対）になるようにして図①～④の順にたたむ（図⑧でひろげたときは模様が下側になる）。



## 〔D〕 短冊

### 【つくり方】

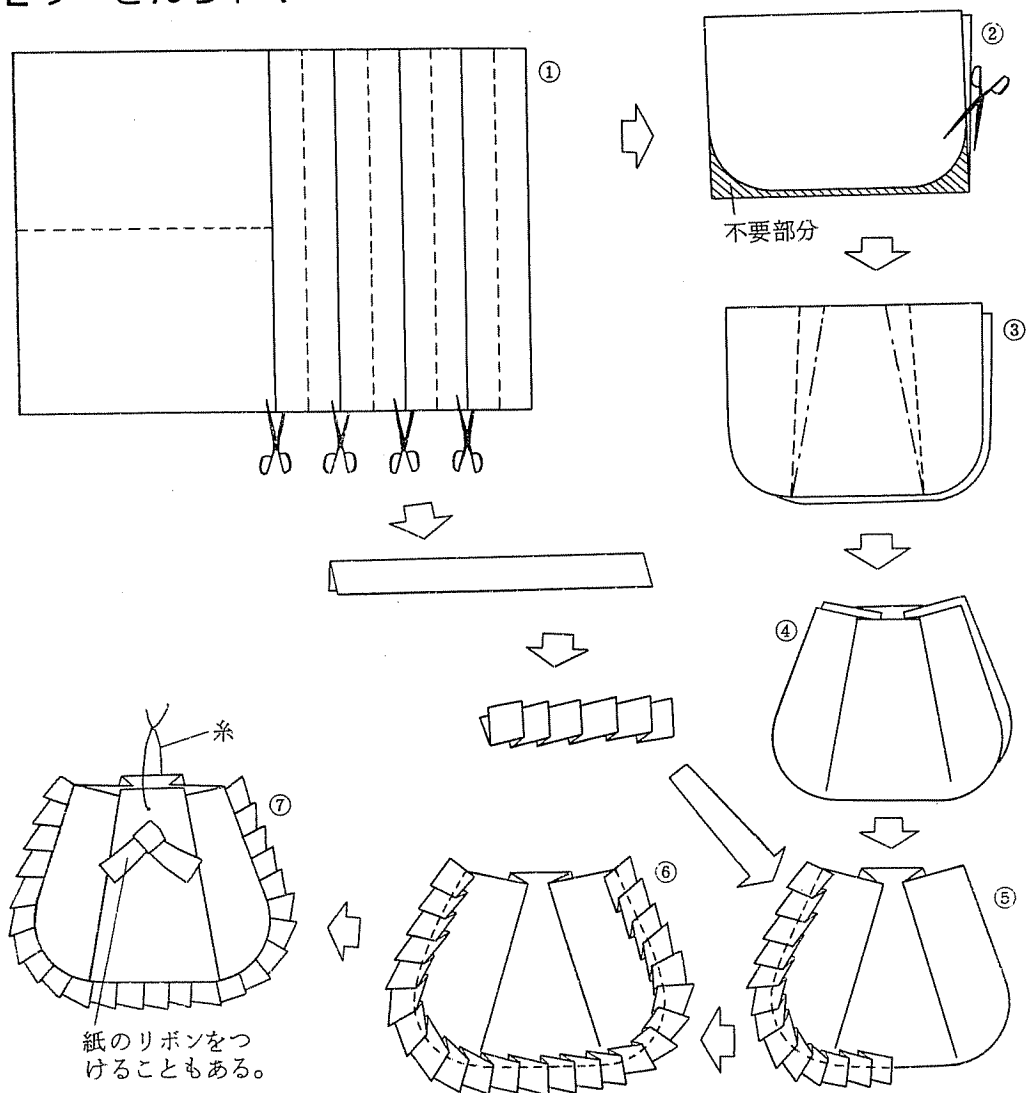
- ▶ 元来は、五色の色紙、短冊に古歌や自作の和歌を書いたものをいう。
- ▶ しかし現代は、青、赤、黄、白、浅黄（紫を加えてもよい）のいろ紙を短冊の形に切ったものを一般に用いる。
- ▶ 文字も簡単に「七夕」とか「天の川」「星まつり」などと書き、片側に細くはさみを入れてこより、ササの枝にむすぶ。  
短冊は七夕の基本となる飾りであるから、たくさんつけること。



「七夕にまつわる古歌」

七夕に	天の川	七夕の
願いの糸を	とわたる舟の	と渡る舟の
ひきかけて	思ふことをも	かじの葉に
こよいぞいのる	書きつくるかな	いく秋かきつ
星あいの空		露の玉づき

## 〔E〕 きんちゃく



### 【つくり方】

- ▶ 袋になる部分は、表裏にタックをいれ（対称になるようにひだをつける）、ふち飾りをはさんで、はり合わせる。
- ▶ 用紙は、チラシや包装紙などを利用するとよい。
- ▶ 図①の裁ち方は、原則的な形を示したにすぎない。一般には、袋部分とふち飾りとは異なった色の紙を用いる。「お金に縁がありますように」との願いをこめて、金紙や銀紙をふち飾りに

よく使う。

- ▶ 大きさは、大きいものでも小さいものでもかまわないが、小型のものほど細工しにくい。初心者は薄めの紙で、思いきり大きいものからつくってみるとよい。
- ▶ 袋部の形も、半円型、長四角型などと、いろいろ工夫する。
- ▶ はり終わったら、中に紙くずを入れ、口に糸をつけてできあがり。

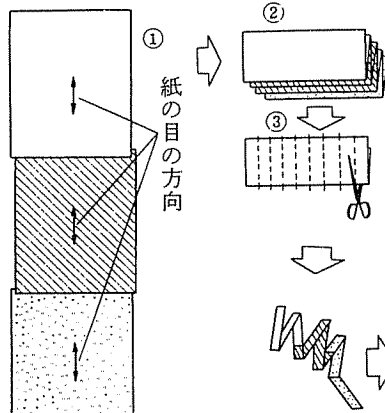
## 〔 F 〕 吹き流し

### 【つくり方】

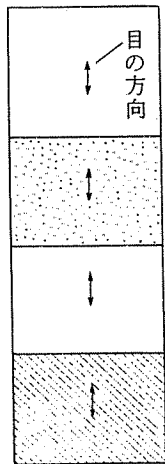
- ▶織姫星の伝説にもとづいて、織り糸のたれさがったありさまをなぞらえた「吹き流し」は、七夕のササ飾りを優美にするために、とくにたいせつな役目をしている。したがって、紙の色のとり合わせや形には、じゅうぶんな配慮をしなければならない。
- ▶吹き流しの紙は、細くて長いものがよい。そのため、同色のテープ状の紙をつぎ合わせたり、2色以上の紙をつぎ合わせたりする。
- ▶吹き流しは、1本ずつバラバラにササ竹に飾るのが古いならわしであったが、最近商店街などの広告宣伝に利用され、薬玉(くすだま)にたくさんの吹き流しをつりさげた、きらびやかなものがあらわれるようになった。

### □ 簡単な吹き流し

同色、または色ちがいの紙を何枚かつなぎ合わせ、折りたたんでハサミで切っていく。輪をつなぎにしたものも用いられる。



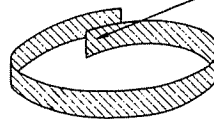
### □ 豪華な吹き流し



紙の目をタテにしてつなぎ合わせ、たたんだあと、上端を残してはさみを入れる。

⑤輪の部分にいる紙をはって、できあがり。3か所に糸をつけてつるす。

③経木(またはボール紙)で輪をつくる。

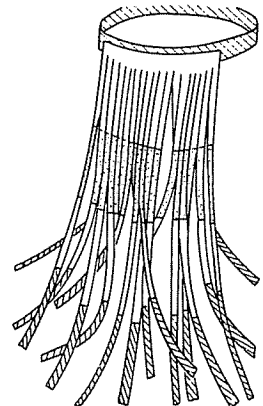


図④のように吹き流しの紙を3枚か4枚順次はっていき、はり初めとはり終わり部を合わせてから輪のつぎ目をのりつけする。

④輪に吹き流しの紙の上辺をはる。



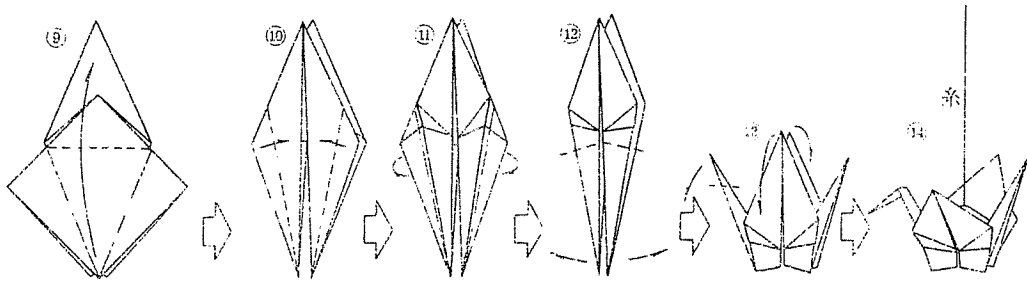
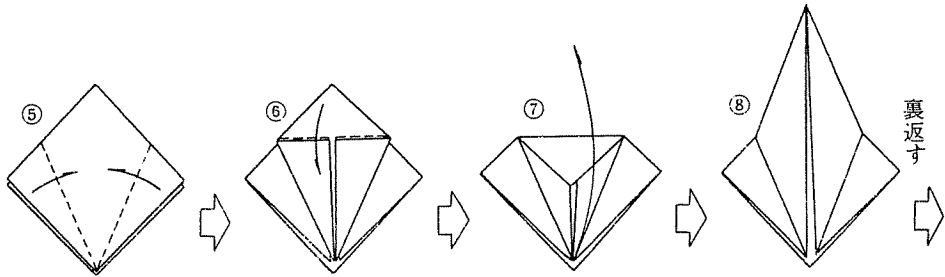
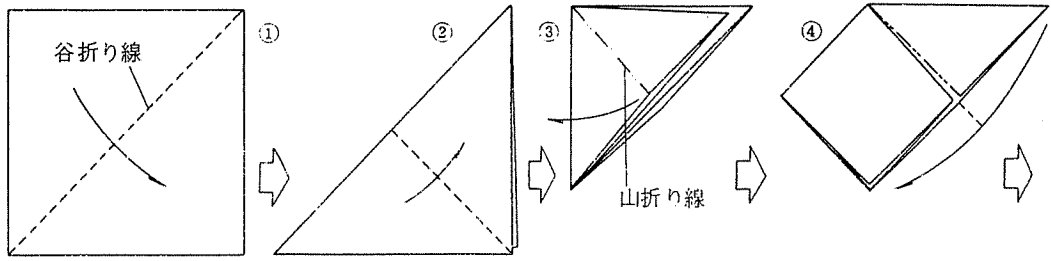
いろ紙をはる



参考：2色の吹き流しを2重にはると、きらびやかな感じになる。



# 〔 G 〕 折りづる



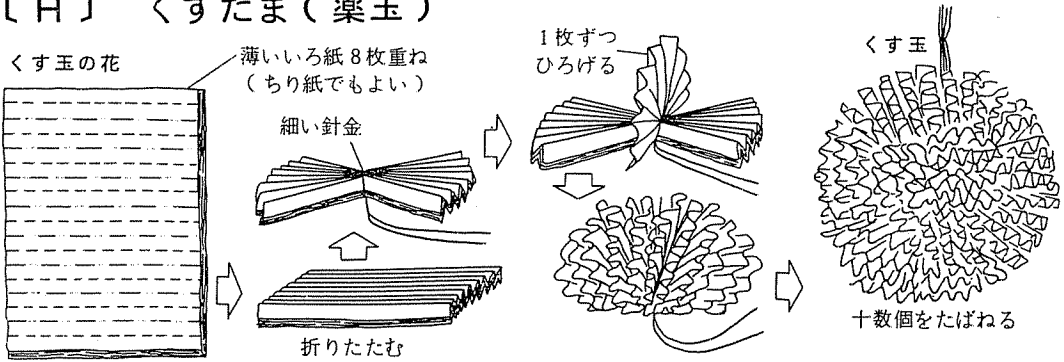
## 【つくり方】

- ▶ 正方形の紙を、表を下にして置いて、①から⑤まで折る。
- ▶ 図⑤、⑥の折り線どおりに折ると図⑦になる。その折り線をめやすにして、図⑦の矢印の方向に下の端を引きおこすと、図⑧になる。
- ▶ 図⑨では、⑤→⑦と同じことをくりか

えし、図⑩になる。

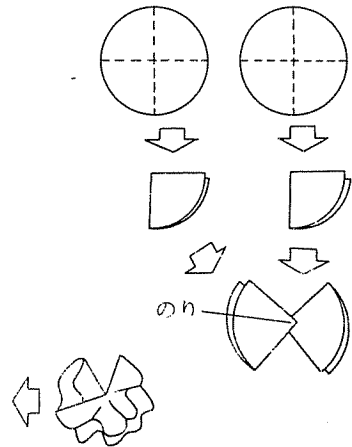
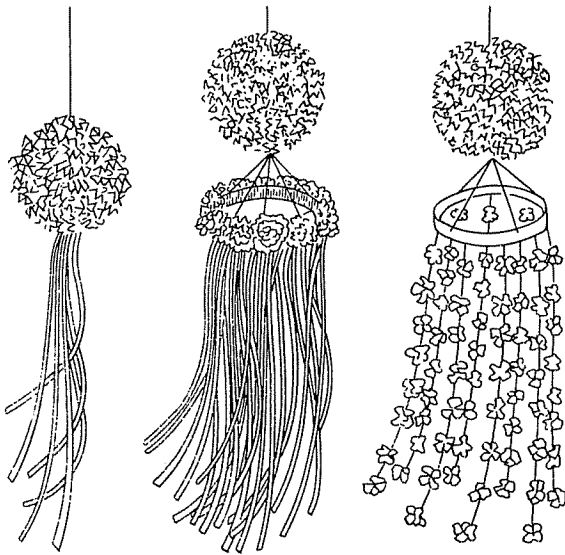
- ▶ ⑩→⑪を折って、⑫になる。
- ▶ 図⑫の折り線のところを、中割りに折って図⑬になる。
- ▶ 翼の根もとをつまんでひっぱりながら開くと、背のまるみがきれいにできる。
- ▶ 糸をつけて、ササ竹につるす。

# 〔H〕 くすだま(薬玉)



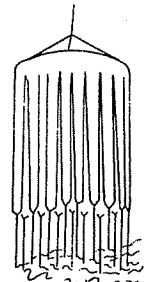
- ▶大きなくす玉をつくる時は、球形の心をつくり(竹などであむ)、表面にくす玉の花をはる。
- ▶数種の紙を組み合わせてくす玉をつくってもよい。

## □ くす玉をつけた「吹き流し」



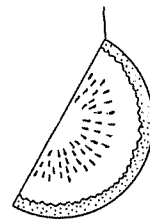
花ぐしの  
吹き流し=薄い  
紙を図のように  
ひろげてつくる。

## □ 七夕線香



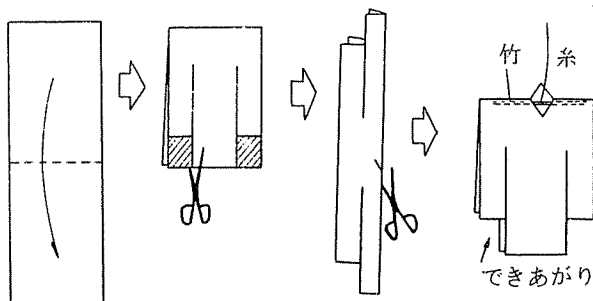
吹き流しの下端  
に1本ずつ線香  
をはったもの、  
(火災のおそれ  
があるので現在  
はほとんど廃絶  
した)

## □ 灯入れ行燈



竹の骨組みでいろ  
いろな形のもの  
をつくり、上から紙  
をはって彩色する。

## □ 簡単な紙衣



発行 仙台七夕まつり協賛会  
仙台市青葉区本町二丁目16番12号  
仙台商工会議所内  
☎ 022-265-8181